



一九五九年十二月十四日(月)午後2時9分:

新潟を出発した「彼ら」の魂を、半世紀後のいま、わたしたちの傍らに呼びもどす。

キム

シ

ジョン

金時鐘

ぼくを抜け出た
すべてが去った。
茫洋とひろがる海を
一人の男が
歩いている

海にかかる
橋を
想像しよう。
地底をつらぬく
坑道を
考えよう

詩の朗読、パフォーマンス、前衛ジャズインプロヴィゼーションが会う

金時鐘の新潟：記憶と声（一般公開・無料）

日時 2009年12月1日(火)午後6時30分開演(6時開場)

会場 新潟市万代市民会館(新潟市中央区東万代町9番1号)

出演 金時鐘/堀川久子(舞踏)/原田依幸(ピアノ)/トリストラン・ホンジンガー(チェロ)

|主催|新潟大学人文学部 |共催|off note(神谷一義)、新潟大学人文学部研究プロジェクト「声とテキスト論」(代表 高木裕)、新潟大学国際学術サポートオフィス

金時鐘の新潟：記憶と声

「行き着けない国を思い、豪雪地帯でも道を保っている雁木道の、持ち寄った知恵の意志力を思い、38度線を同じくかかえる新潟県から、分断の緯度を越える帰国船が船出していることの暗示に打たれて、長編詩『新潟』は自分自身の存在証明として一九六〇年のはじめに書かれた」
 (『新潟日報』2001年4月18日金時鐘氏寄稿)

ご案内

金時鐘の長編詩「新潟」を、新潟在住のどれくらいの人知っているでしょう。「帰国船」事業についてはどうでしょうか。1948年8月15日に大韓民国、9月9日に朝鮮民主主義人民共和国が建国され、現在まで続く民族・国土「分断」を予兆した済州島(チェジュド)「4.3事件」については。

「ニイガタから来た」と自己紹介すると50代以上の韓国人に「ああ、ブクソンソン(北送船)の」と相づちを打たれます。今年2009年は、12月14日に在日朝鮮人帰国船第一便が新潟港から清津(チョンジン)港に向って半世紀。2001年、「(長編詩創作から)四十年もへだたっている新潟に、三月末思ってもよらない旅をした。日本国さながらに縦に深い新潟県の内懐を、東西に三日がかりで尋ね歩いた」金時鐘氏が、再び新潟の地に立ちます。ここ新潟を舞台に踊り続ける堀川久子さん、堀川さんと息の合ったホンジンガーさんのチェロ、そして、原田依幸さんのピアノと共に。

「記憶というのはね、長い年月を経ると、透きとおって、澄んでいってしまうんですね。その記憶が、特に悲しくなってくるのは、自分が直接見た、経た光景がね、ひとつも無残でなく、それでいて美しいんですね。たとえば、土埃のなかの、杏の花の、咲き乱れている、また、済州島はつつじが早いんですが、村人、燃えてる村、焼き討ちにあった村のね、小高い村には、つつじ、チンダルレがね、村、煙が立ち込めて霧っているのにその隙間から、合間合間からずっと、つつじが見えるんですね。その無残な光景が透明になってしまう、そういうのが悲しいんですね」

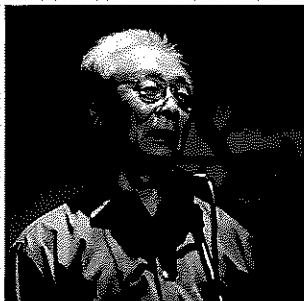
金時鐘氏の声と日本語は、「透明になってしまった記憶」に抗うようにささくれ立ち、わたしたちの胸に爪痕を残します。

海にかかる橋を想像しよう。地底をつらぬく抗道を考えよう。

長編詩「新潟」の一節は、日本海(東海)の向こう、もしくはいまだここに存在しないものすべてを、だからこそ、まざまざと思い描くことの大切さと喜びを教えてください。

歴史を生き抜いた声と身体、旋律が共振する場で、記憶と希望と意志をぜひ共に(朝鮮語でハムケ)していただけますように。

新潟大学人文社会・教育科学系 教授 原田 健一
 准教授 逸見 龍生
 准教授 藤石 貴代



金時鐘 略年譜

- 1929 朝鮮半島 元山に生まれる
- 1937 普通学校(小学校)入学
「親を超えなければ『日本人』にはなれなかった小さい魂の喘ぎなど、植民地の歴史をどのように繰っても見えはしまい」
- 1945 日本敗戦/朝鮮・台湾「光復」(8.15)
「朝鮮文字ではアイウエオの『ア』も書けない私が、呆然自失のうちに朝鮮人へ押し返されていた。私は敗れ去った『日本国』からさえ、おいてけぼりを食わねばならなかった正体不明の若者だった」
- 1948 済州島人民蜂起(4.3事件)
大阪難波の古書店で小野十三郎『詩論』と出会う
- 1950 『新大阪新聞』「働く人の詩」欄に投稿
朝鮮戦争勃発(6.25)
- 1953 同人誌『チンダルレ』創刊(～1961廃刊)
在日本朝鮮統一民主主義統一戦線(民戦)専従職員に
朝鮮戦争休戦(7.27)
- 1970 長編詩集『新潟』(構造社)刊
- 1978 『猪飼野詩集』(東京新聞出版局)刊
- 1980 『クレメンタインの歌』(文和書房)刊
- 1983 『光州詩片』(福武書店)刊
- 1986 『「在日」のはざままで』(立風書房)刊
- 2001 『なぜ書き続けてきたか なぜ沈黙してきたか』(金石範と共著、平凡社)刊
- 2004 『わが生と詩』(岩波書店)刊
- 2007 『再訳 朝鮮詩集』(岩波書店)刊

(集成詩集『原野の詩』立風書房、1991、野口豊子作成年譜参照)

堀川久子(ダンサー)

1955年新潟生まれ。1974年美学校で音楽家小杉武久に学ぶ。1978年即興するための身体を求めて、舞踏家田中泯のワークショップに参加して以来、身体気象研究所、舞塾、身体気象農場など、そのすべての活動を共にこなす。踊り始める。1998年より新潟市を拠点に活動。まちを身体で感覚すべく、劇場以外の場所で踊り始める。海外での公演、ワークショップも多数。近年、新潟市の伝承芸能、盆踊りを訪ねあそび、人々に伝える作業も行っている。



Tristan Honsinger トリスタン・ホンジンガー(チェロ奏者・作曲家)

1949年米国生まれ。チェリスト、作曲家。9歳からチェロクラシックを学び、ニューイングランド音楽院、ピーボディ音楽院を経て、1974年からヨーロッパに居住。以来、デレク・ベイリー、ハン・ベニング、ミシャ・メンゲルベルク、アレキサンダー・シュリッペンバッハなどと共に、ヨーロッパの即興シーンをリードする役割を果たしてきた。アムステルダム在即興演奏グループICPオーケストラのメンバー。近年は音楽家が役者、ダンサーと共に役を演じながら音楽を構成していく、ミュージックシアターの試みを様々な国で展開。脚本も手がけ、作曲家としてのメロディの美しさに定評がある。

原田依幸(フリージャズピアニスト)

島根県大社町出身、1948年生まれ。国立音楽大学クラリネット科卒。同学年同科の梅津和時(reeds)と在学中からデュオ活動を始める。78年生活向上委員会大管弦楽団としてライブ活動を開始。83年の解散後、自己の「新撰組」「絶倫本舗」「魚介類」やソロピアノなどで活動。現在「原田椅子」のメンバーによる原田ユニットでアケタの店を拠点に活動中。金時鐘との共演では、2008年7月「ここより遠くよりこの近くに」東京公演で、「吹きつる原野の風のように」と絶賛されたパフォーマンスを小山彰太(ドラムス)氏と披露。

